

「戦後の日韓関係の発展と未来志向のグローバル協力」シンポジウムを開催

2026年6月12日（金）、立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルームにおいて、東アジア平和協力研究センターと国民大学校日本学研究所の共催（後援：韓国国際交流財団）により、シンポジウム「戦後の日韓関係の発展と未来志向のグローバル協力」を開催しました。

開会にあたり、東アジア平和協力研究センター長の中戸祐夫教授、立命館大学の仲谷善雄学長、国民大学校日本学研究所長の崔喜植教授よりあいさつがありました。



東アジア平和協力研究センター長 中戸祐夫教授



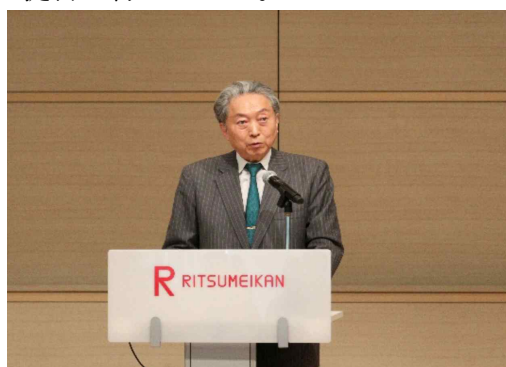
国民大学校日本学研究所長 崔喜植教授

基調講演では、駐大阪大韓民国総領事の李泳采氏が、東アジア情勢の変化を踏まえた日韓協力の意義と今後の展望について講演を行いました。

続く特別講演では、第93代内閣総理大臣で一般財団法人東アジア共同体研究所理事長の鳩山由紀夫氏が登壇し、戦後の日韓関係の歩みを振り返るとともに、東アジア共同体の理念に基づく地域協力のあり方について提言を行いました。



駐大阪大韓民国総領事 李泳采氏



第93代内閣前首相 鳩山由紀夫氏

午後には、「日韓関係60年の歴史的展開と意味」「日韓ジレンマの解決と戦略的協力の構築」「グローバル時代の日韓関係」の三つのセッションが行われ、日本と韓国

の研究者による活発な議論が展開されました。日韓関係の現状と課題、さらには東アジア地域における平和と協力の可能性について、多角的な視点から意見交換が行われました。



本シンポジウムには研究者、学生、一般の方々など多様な参加者が集い、日韓両国の相互理解と学术交流を深める貴重な機会となりました。今後も東アジア平和協力研究センターでは、東アジア地域の平和と協力を資する研究・交流活動を推進してまいります。

Friday, June 12

9:30-17:00

戦後の日韓関係の 発展と未来志向の グローバル協力

- ◎場 所: 立命館大学 衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム
- ◎形 式: 公開会議
- ◎言 語: 日韓同時通訳
- ◎主 催: 立命館大学東アジア平和協力研究センター
国民大学校日本学研究所
- ◎後 援: 韓国国際交流財団 (KF)



お申込みはこちら

Special speaker



特別講演 10:10~10:35

鳩山由紀夫
内閣総理大臣 (第93代)、
一般財団法人東アジア共同体研究所理事長



基調講演 9:45~10:10

李泳采
駐大阪大韓民国総領事

session1 (10:45-12:15) : 日韓関係60年の歴史的展開と意味

session2 (13:15-14:45) : 日韓ジレンマの解決と戦略的協力の構築

session3 (15:05-16:35) : グローバル時代の日韓関係

KOREA FOUNDATION
KF
한국국제교류재단

R 東アジア平和協力研究センター
Center for East Asian Peace and Cooperation Studies, Ritsumeikan University

Institute of Japanese Studies
IJS 국민대학교
일본학연구소
KOOKMIN UNIVERSITY

Program

9:30-10:45	<p>開会挨拶 中戸祐夫 立命館大学東アジア平和協力研究センター長 崔喜植 国民大学日本学研究所・所長 仲谷善雄 立命館大学学長</p> <p>基調講演 李泳采 駐大阪大韓民国総領事</p> <p>特別講演 鳩山由紀夫 内閣総理大臣（第93代）、 一般財団法人東アジア共同体研究所理事長</p>
10:45-12:15	<p>session1：日韓関係60年の歴史的展開と意味 司会: 中戸祐夫(立命館大学)</p> <p>1) サンフランシスコ体制の形成と変化：歴史認識と戦後構築の観点から 尹錫貞 (国立外交院)</p> <p>2) 「韓国人民」の歴史意識から日韓条約第2条null and voidを考える 太田 修(同志社大学)</p> <p>3) 70-80年代の日韓関係：国際秩序の変動と日韓関係 崔喜植 (国民大学校)</p> <p>4) 1990－2000年代：日韓首脳外交の活性化と民間交流の拡大 鈴木宏尚(静岡大学)</p>
12:15-13:15	<p>昼食</p>
13:15-14:45	<p>session2：日韓ジレンマの解決と戦略的協力の構築 司会: 崔喜植(国民大学校)</p> <p>1) 第二次安倍政権以降の日本の対韓認識 —外交言説にみる規範秩序とアイデンティティ政治 - 孫皙衣(ソウル大学校)</p> <p>2) 日韓安全保障：戦略的連携と制度的制約 - 雷樞あゆみ(慶應義塾大学)</p> <p>3) 記憶の政治と領土主権の地政学——日韓協力の課題 - 尹大燁(大田大学校)</p> <p>4) 競合する地域秩序と日韓外交 —HedgingからOntological Balancingへ— - 中戸祐夫(立命館大学)</p>
14:45-15:05	<p>休憩</p>
15:05-16:35	<p>session3：グローバル時代の日韓関係 司会: 孫皙衣 (ソウル大学校)</p> <p>1) 対称同盟の時代へ—アメリカ主導の国際秩序の終焉と日米・米韓同盟の行方 - 玉置敦彦(中央大学)</p> <p>2) 東アジア地域協力と日韓の共同利益および課題 -佐竹知彦 (青山学院大学)</p> <p>3) グローバル・パラダイムの変化と日韓経済協力の必要性 - 李昌玟 (韓国外国語大学校)</p>
16:35-17:00	<p>閉会挨拶 崔喜植 国民大学校日本学研究所・所長 中戸祐夫 立命館大学・教授 東アジア平和協力研究センター長 韓瑞恩 韓国国際交流財団 東京事務所 所長</p>

후원



개최

리츠메이칸대학 동아시아연구센터&국민대학교일본학연구소

참가신청 QR코드



전후 한일관계의 발전과 글로벌협력

새로운 한일관계를 열다

장소:리츠메이칸대학 키누카사 캠퍼스 창사관 컨퍼런스룸
일시:2026년6월12일금요일 10:00~17:30
형식:공개회의
언어:한일동시통역

프로그램

개회 및 기조 특별강연

오사카 총영사관 이영채
前 일본 총리 하토야마 유키오

Part 1. 한일관계 60년의 의미 (사회 나카토 사치오)

- 1. 샌프란시스코 체제의 형성과 변화 : 역사 인식과 전후 구축의 관점에서 윤석정(국립외교원)
- 2. 한국민중'의 역사 의식에서 일한조약 제2조 null and void에 대해고찰한다 오오타오사무 (도시사대)
- 3. 70-80년대 국제질서의 변동과 한일관계 최희식 (국민대)
- 4. 1990-2000년대 한일정상외교의 활성화와 민간교류의 확대 스즈키 히로나오(시즈오카대)

Part 2. 한일갈등해결과 전략적협력 구축(사회 최희식)

- 5. 제2차 아베 정권 이후 일본의 대한국 인식--외교 담론에서 보는 규범 질서와 정체성 정치 손석의(서울대)
- 6. 한일안보·국방협력: 전략적연계와 제도적제약 토가시 아유미(게이오대)
- 7. 기억의 정치와 영토주권의 지정학: 한일협력의 과제 윤대엽(대전대)
- 8. 경쟁하는 지역 질서와 한일 외교—Hedging에서Ontological Balancing으로— 나카토사치오(리츠메이칸대)

Part 3. 글로벌 시대의 한일관계(사회 손석의)

- 9.대청 동맹의 시대로—미국 주도의 국제 질서 종말과 일미·한미 동맹의 행방— 타마키 노부히코 (리츠메이칸대)
 - 10. 동아시아 지역협력과 한일의 공동이익과 과제 사타케 토모히코(아오야마 가쿠인대)
 - 11. 글로벌 패러다임의 변화와 한일 경제협력의 필요성 이창민(한국외대)
- 폐회 나카토 사치오(리츠메이칸대) 최희식 (국민대)